

### 通信所 1 (全長 19.85m)

4 部屋に分かれており、一番広い部屋は長さ 9.8m あります。

ガラス瓶や鍋等が多く出土し、飯ごうには、「昭一七」(昭和 17 年) や「イワツカ」といった文字が読めます。

これまでの研究から、短波送信機が置かれていたことが分かっています。



### 通信所 2 (残存部全長 8.8m)

北半分のみが残されており、南側には、通信所本体の断面を見ることが出来ます。本体のコンクリートは厚さ約 60 cm、鉄筋の直径は 2.5cm あります。天井アーチ部の両脇に補強のためのコンクリート壁が付けられています。

内部の部屋の壁には、棚を付けていた L 字金具が残されています。

これまでの研究から、耐弾発電所であったことが分かっています。



### 通信所 3 (全長 19.7m)

中央に長さ 13m の広い部屋があり、全部で 3 部屋に分かれています。

ここだけは壁が上塗りされておらず、建設時の型枠の角材やその痕跡がはっきりと残っています。また、部屋の仕切り壁もレンガを積んで作っている状態がよくわかり、通信所の建設方法を観察することができます。



### 通信所 4 (全長 22.7m)

全長は通路含めて 22.7m と一番大きく、部屋の数も 6 部屋と最も多い通信所です。

### 連絡通路

通信所 3 と 4 の間は、幅 1 m、高さ 1.8m、長さ 26m の連絡通路でつながっています。通信所から約 3 m の位置に扉跡があります。

